

<b>「秋田の文学とその背景を尋ねる」</b> <small>定員100名程度</small> 著名な作家が描いた秋田について、作品を通してその背景を学ぶ講座です。 講師：美の国アクティブカレッジ シニアコーディネーター 北条常久			
L-1	4月25日(木)	10:00～11:30	【第56回「農民文学賞」受賞 記念講座】 伊藤 永之介 「総督府模範竹林」
L-2	5月30日(木)	10:00～11:30	千葉 治 平 「蕨根を掘る人々」
L-3	6月27日(木)	10:00～11:30	鹿 島 茂 『バリでひとりぼっち』
L-4	7月25日(木)	10:00～11:30	斎藤 隆 介 『八郎』
L-5	8月29日(木)	10:00～11:30	水 上 勉 『釈迦内枢唄』
L-6	9月19日(木)	10:00～11:30	西 木 正 明 『凍れる瞳』
L-7	10月31日(木)	10:00～11:30	佐藤 鉄 章 『季節風の彼方に』
L-8	11月21日(木)	10:00～11:30	高 井 有 一 『真実の学校』
L-9	12月12日(木)	10:00～11:30	宮 越 郷 平 『冬の航跡』
L-10	1月23日(木)	10:00～11:30	加藤 富 夫 『口髭と虱』
L-11	2月20日(木)	10:00～11:30	吉 村 昭 「ハタハタ」
L-12	3月20日(木)	10:00～11:30	熊 谷 達 也 『邂逅の森』

当カレッジの北条常久シニアコーディネーターが、月1回秋田にゆかりのある文学者や作品を取り上げて開催した講座です。毎回多くの方々に受講していただいた人気講座であったため、2月に「台湾文学事情」と題した特別公開講座も実施しました。ここでは、その特別公開講座の様子について報告します。

2月23日（日）の午後から「台湾文学事情」と題して、当センターの北条常久（美の国アクティブカレッジ・シニアコーディネーター）が、昨秋に台湾の大学で集中講義を行った経験をもとに、台湾における日本語文学について講話を行いました。

その中で、楊逵の「新聞配達夫」を例に、戦前の日本の現実社会を浮き彫りにし、『台湾万葉集』では、台湾の人々が日本語教育を受けて日本語を上手く操ることで感じた悲哀を紹介しました。



台湾の文学事情について語る北条コーディネーター



L-6 講座（西木正明氏）の様子